

Q-1203 多雨地区でのコンクリート舗装を施工するときの問題点は何ですか？

日本で年間の降水日数が多いのは北陸地方で190日/年前後、少ないのは瀬戸内海に面した地域で90日/年前後となっている。しかし、降水日は降雪期、梅雨期、秋雨期に集中するので、こうした時期を除けば、多雨地区においても、降水日は何日も続くことはほとんどない。コンクリート舗装工事では、降水日にコンクリートを打設することは難しいが、打設した後の養生期間の降水はコンクリートにとっては望ましい散水養生ともいえるので、コンクリート舗装を適用する上で、多雨地区という気象条件が大きな支障となることはない。また、コンクリート舗装は、アスファルト舗装に比べて供用後の路面の摩耗や変形が少ないので、路面に水溜りができにくいという利点もあり、むしろ多雨地区の舗装には適している。

コンクリート舗装を行うときの降雨に対する注意点としては、以下の事項があげられる。

コンクリート打設前の注意点

- ・ 一般のコンクリート舗装工事では、コンクリートを打設する前日までに、路盤は所定の支持力となるよう構築される。しかし、コンクリートを打設するまでの間に、降水などによって、路盤に水が溜まり、路盤の支持力が低下すると、再度路盤の手直しが必要となる。したがって、降水による路盤の支持力低下を防ぐため、路盤に水が溜まらない又は路盤に水がしみ込みにくくなるような降水対策を準備しておくのがよい。

コンクリート打設時の注意点

- ・ 一般にコンクリート舗装工事は、屋外の屋根のない場所で行われるので、原則として降水日又は降水が予想される日のコンクリート打設は避けるのがよい。
- ・ コンクリート打設の途中で雷雨などの一時雨が予測された場合には、舗設したコンクリート表面を養生マット及びブルーシートなどで覆い、打設したコンクリート表面に直接降雨があたらないような降雨対策を準備しておくのがよい。

コンクリート打設後の注意点

- ・ 一般のコンクリート舗装工事では、コンクリートを打設して粗面仕上げを行った後、養生マットで表面を覆い、打設したコンクリートが乾燥しないよう散水養生が行われる。この養生期間の降水は、散水と同じ養生効果であり、コンクリートにとって望ましいといえる。したがって、コンクリート打設後は、速やかにコンクリート表面を養生マットで覆い、保護するのがよい。